

問2 性病エイズに関する知識の正答率

	修了生	未修了生
最近、日本の若者の中でエイズウイルス感染者が増えている	94.1%	76.9%
最近、日本の若者の間で性病患者が増えている	94.1%	100.0%
エイズウイルス感染者が使用した食器を使ったり、トイレを使うと、エイズウイルスに感染する可能性がある	100.0%	92.3%
性病にかかっていると、エイズにかかりやすい	41.2%	38.5%
口を使ったセックスで、ペニスから口に性病が移ることがある	94.1%	84.6%
性病にかかると、必ず症状が出る	100.0%	100.0%
性病を治療しないと、赤ちゃんができなくなることがある	100.0%	100.0%
普通のエイズ検査では、感染してから数日後に感染しているかどうか分かる	82.4%	69.2%
保健所では、名前を言わずに無料でエイズ検査ができる	94.1%	84.6%
コンドームを使うことは、性病やエイズの予防に有効である	94.1%	100.0%

表3 修了結果別再度の受講希望

	修了生	未修了生	計
受けてみたい	7	5	12
どちらかというと受けてみたい	6	4	10
どちらかというと受けてみたくない	3	1	4
受けたくない	1	3	4
合計	17	13	30

ピアカウンセリングの評価及びその効果的普及に関する研究

分担研究者 中村 好一 自治医科大学 公衆衛生学部門 教授
研究協力者 篠澤 侁子 自治医科大学 看護学部 教授
研究協力者 渡邊 至 自治医科大学 公衆衛生学部門 助手

ピアカウンセリングの有効性の評価の実施およびその効果的普及の為に本年度は基礎データの収集を目的とした。ピアカウンセリングを受講した高校生と無作為抽出した高校生に対し、無記名式のアンケート調査をピアカウンセリング受講の前後に実施する（受講者3回、無作為抽出者は2回）。本報告では、初回調査でアンケートを回収しえた受講者282名、無作為抽出者9032名、また、第2回調査で現在入力終了した受講者246名のデータを用い、ピアカウンセリングの評価およびその効果的普及の為の予備的な検討を行った。

A. 目的

ピアカウンセリングを受講した高校生に及ぼす短中期的な影響を評価するには無作為割付介入研究による検討が望ましい。その前段階としてピアカウンセリングの対象である高校生の性に関する基本的な特性や考え方、ピアカウンセリングの評価指標などについて検討しておく必要がある。また、今後効果的に普及していくためには、高校生のピアカウンセリングに対するニーズなどについても把握しておく必要がある。そこで本年度は基礎データを収集し、ピアカウンセリングの評価およびその効果的普及の為の予備的な検討を行うことを目的とする。

B. 方法

平成14年9月に栃木県内の県立高等学校68校全てにピアカウンセリングの受講者を募集し、各校毎に受講予定者（以下受講者群）を決定した。この受講者群に対しピアカウンセリング受講前（初回調査、平成14年10月）、受講終了2ヶ月後（第2回調査、平成15年2月）、受講後半年後（第3回調査、平成15年6月）の計3回無記名

式アンケート調査を行う。またピアカウンセリングを受講しなかった生徒から抽出率20%で無作為抽出を行い（以下無作為抽出群）、この無作為抽出群に対しても受講者群と時期をそろえ（受講前と受講後約半年後の2回）同様のアンケート調査を行う。

受講者群に対するアンケート調査の内容は以下の通りである。学年、性別、受講場所、家族構成、何でも打ちあけられる友人の有無、彼氏彼女の有無、性交の経験の有無、避妊や性感染症に関する知識の有無、自分自身の性に対する感じ方（自分の性に生まれて良かったと思うか）、自分にとっての性交の意味（子供を産むため、快樂のため、パートナーとの愛情確認のため、この3つに順位をつける）、自分の人生設計について考えているか、ピアプレッシャーの感じ方（周囲の友人が性交の経験があると自分も早く経験してみたいと思うか）、気持ちの準備が出来ていない段階で性交を求められた時自分の気持ちを伝える自信の有無、性交時にコンドームを使用する必要性があると思うか、性交時にコンドームを正しく使う自信の有無、性交時にピルを使用する必要性があると思うか、ピルの入手

方法を知っているか、一般性self-efficacy尺度測定、self-esteem尺度測定（Rosenbergの尺度による）などである。受講者群のアンケートにはピアカウンセリング受講の有無の確認、無作為抽出群に対するアンケートには過去のピアカウンセリング受講の有無、今後のピアカウンセリング受講の希望の有無に関する質問を追加している。

第2回調査は現在回収中であるが、現段階で回収入力できた53校246人分の調査結果を、前回の調査結果と比較した。

C. 進捗状況、結果及び考察

1) 進捗状況

ピアカウンセリング受講前の初回調査は受講者群と無作為抽出群ともに10月下旬から11月初旬にかけて実施済みであり、現在、第2回調査を2月に実施し、回収及び入力中である。（回収済み59校中56校258部、入力済み53校246部）

2) 初回調査（受講前調査）の回収状況と性学年別内訳（表1）

受講者群（ピアカウンセリング受講予定者）は59校から282人、無作為抽出者群は67校から9032人の調査用紙を回収した。無作為抽出の回収率は92%であった。有効回答率は全ての質問項目で94%以上、「自分にとっての性交の意味」の質問を除くと99%以上であった。表1に受講者群と無作為抽出者群の性学年の内訳を示した。

（無作為抽出者群で性または学年不明の者51名は除外した。）さらに無作為抽出者群の中からピアカウンセリング受講を希望するかという質問でピアカウンセリングを受講したい、またはどちらかといえば受講したいと答えた集団（ピアカウンセリング受講希望者群）を再抽出し、その性学年の内訳についても併記した。

ピアカウンセリング受講者群では女が男

に比べ2倍、ピアカウンセリング希望者群でも約1.7倍多く、女の方がピアカウンセリングにより積極的に参加する傾向があるといえる。また、無作為抽出者中のピア受講希望者の割合は学年間で大きな差はなく、男で20%前後、女で30%前後であり、潜在的にはピアカウンセリングに対するニーズがあると思われる。より高校生がピアカウンセリングに参加しやすいような環境作りが重要である。

3) 初回調査における受講者群と無作為抽出群の結果の比較（表2,3）

受講者群と無作為抽出群を比較すると、男女とも受講者群において、何でも話せる友人のいる割合、彼氏彼女のいる割合、性交経験のある割合、避妊と性感染症に関する知識の正答割合、自分自身の性が良いと感じる割合、人生設計を考えている割合、気持ちの準備が出来ていない段階で性交を求められたときに自分の気持ちを伝える自信がある割合、コンドームを正しく使う自信ありの割合、ピルの入手方法を知っている割合、Self-Efficacy、Self-Esteemの平均点などにおいて、無作為抽出群に比べ高かった。逆に受講者群でピアプレッシャーを感じる割合は低かった。以上より受講者群は無作為抽出群とは異なる特性をもつ集団と考えられ、性に関連する事をはじめとして、平均的なレベルより一般的に行動的で積極的な性質を持つ集団であると考えられる。よって両群の経時的な変化を単純に比較し、ピアカウンセリングの有効性として評価するのは困難である。

4) 初回調査における受講者群と希望者群の結果の比較（表2,3）

受講者群と希望者群を比較すると、Self-Efficacy、Self-Esteemに関しては希望者群で男女とも平均点は低く、無作為抽出群

に近い値であった。また、ピアプレッシャーを感じる割合は男女とも希望者群で受講者群や無作為抽出群より高かった。その他の項目では彼氏彼女のいる割合や性の知識、あなたのための性交の意味、人生設計を考えている割合、コンドームを正しく使う自信ありの割合などに関しては受講者群と近い値であった。女では希望者群で性交経験率がやや高い傾向にあった。性や項目により差があるが希望者群は受講者群と無作為抽出群の中間的な性質の集団であると考えられ、性体験や知識面においては、受講者群とよく似た傾向を持つが、内面的には必ずしも受講者群同じ特性の集団ではない可能性がある。

5) 無作為抽出群における学年間の比較 (表4, 5)

性交経験割合、知識の正答率、人生設計を考えている割合、コンドームを使う自信のある割合、ピルの入手方法を知っている割合、Self-Efficacy 測定の平均点、Self-Esteem 測定の平均点などは項目により程度の差はあるが、男女とも高校3年生で高校1年生より高い傾向にあった。一方、何でも話せる友人のいる割合、自分の性に生まれて良かったと思う割合、性交の意味、ピアプレッシャーを感じる割合、気持ちの準備が出来ていない段階で性交を求められた時に自分の気持ちを伝える自信がある割合などの項目はあまり学年間で差がない。成長に伴い変化していく項目と変化しにくい項目があるように思われる。ピアカウンセリングの受講によりこれらの項目がどのように変化するか検討する必要がある。

6) ピアカウンセリング前後の比較 (表 6,7)

入力済みの53校246人(第1回調査対象者282人中の87%)について解析した。男女とも性の知識に関連する質問の正答率、

性交時にコンドームを使う自信があると答えた割合などが増加していたが、selfefficacy や selfesteem、その他の項目はあまり変化していなかった。個人の価値観に関連する指標は、知識や技術的などとは異なり、短期間では変化しにくいものと考えられる。ただし、前後比較の結果は調査票の回収が終了していないこと、第1回のアンケート調査対象者と同一の生徒に第2回アンケート調査を行うよう周知したが守られていない可能性があること、アンケート対象者は受講予定者であり、必ずしもピアカウンセリングを受講していない可能性があること(受講していないと答えたのは男女各1人、受講の有無が不明なのは男9人、女18人)、無記名調査のため同一生徒の変化などをとらえられないといった限界があることを考慮に入れておく必要がある。

D. まとめ

ピアカウンセリングの対象である高校生の特性を明らかにした。今回の調査の経験と今後得られる調査結果をふまえて、無作為割付介入研究の具体的な方法を検討する。

表1 ピア受講者群、無作為抽出者群、無作為抽出者中のピア希望者群における性別、学年構成

	ピア受講者群		無作為抽出者群		ピア希望者群	
	男	女	男	女	男	女
高校1年生	46	69	1602	1602	304	459
高校2年生	27	87	1439	1601	308	564
高校3年生	21	32	1254	1483	271	466
合計	94	188	4295	4686	883	1489
		合計	合計	合計	合計	合計
		115	3204	3204	304	763
		114	3040	3040	308	872
		53	2737	2737	271	737
		282	8981	8981	883	2372

無作為抽出における回収率 92%以上

無作為抽出調査において性または学年不明の者 51名を除外

表2 ピア受講者群、無作為抽出者群、無作為抽出者中のピア希望者群別のアンケート結果(男)

	ピア受講者群	無作為抽出者群	ピア希望者群
N	94	4295	883
何でも話せる友人有り (%)	81	72	77
彼氏彼女有り (%)	24	19	27
性交経験有り (%)	33	24	32
避妊に関する知識 (以下の各内容の正誤を正しく回答した割合)			
1度のセックスでも妊娠する (%)	80	74	80
安全日にセックスすれば避妊できる (%)	66	55	60
膈外射精すれば避妊できる (%)	68	61	67
経口避妊薬を飲めばほぼ100%避妊できる (%)	44	34	36
きちんとコンドームをすれば避妊できる (%)	31	22	23
緊急避妊法は望まない妊娠を防ぐ方法である (%)	48	38	40
性感染症に関する知識 (正答率)			
コンドームで性感染症の予防ができる (%)	83	80	83
経口避妊薬で性感染症の予防ができる (%)	70	62	69
性感染症はオーラルセックスでも感染する (%)	60	46	49
エイズに感染していても発病前は健康な人と変わらない (%)	73	67	72
自分自身の性に生まれて良かったと思う またはどちらかといえば良かったと思う (%)	98	93	93
あなたにとつての性交の意味 「子供を産むため」が1位 (%)	37	36	33
あなたにとつての性交の意味 「快樂のため」が1位 (%)	12	18	15
あなたにとつての性交の意味 「パートナーとの愛情確認」が1位 (%)	51	46	51
人生設計について考えているまたはどちらかといえば考えている (%)	74	63	72
ピアレッシュヤーを感じる割合 またはどちらかといえば感じる (%)	52	65	75
気持ちの準備が出来ていない段階で性交を求められたときに自分の気持ちを伝える自信がある (%)	70	64	69
性交時コンドームの必要性があると思う (%)	90	82	89
性交時コンドームを正しく使う自信のある (%)	69	62	67
性交時ピルの必要性があると思う (%)	32	25	27
ピルの入手方法知っている (%)	44	29	35
Self-efficacy (平均点±SD)	8.9±3.7	7.2±3.6	7.2±3.6
Self-esteem (平均点±SD)	27.7±5.5	25.7±5.4	25.4±5.4

ピア希望者群からは以前受講した者を除いた

表3 ピア受講者群、無作為抽出者群、無作為抽出者中のピア希望者群別のアンケート結果(女)		ピア受講者群	無作為抽出群	ピア希望者群
女		188	4686	1489
N				
何でも話せる友人有り (%)		88	83	85
彼氏彼女有り (%)		37	26	36
性交経験有り (%)		37	31	44
避妊に関する知識 (以下の各内容の正誤を正しく回答した割合)				
1度のセックスでも妊娠する (%)		82	79	83
安全日にセックスすれば避妊できる (%)		72	68	74
膣外射精すれば避妊できる (%)		73	66	74
経口避妊薬を飲めばほぼ100%避妊できる (%)		45	35	40
きちんとコンドームをすれば避妊できる (%)		25	28	27
緊急避妊法は望まない妊娠を防ぐ方法である (%)		34	34	37
性感染症に関する知識 (正答率)				
コンドームで性感染症の予防ができる (%)		80	74	81
経口避妊薬で性感染症の予防ができる (%)		72	64	69
性感染症はオーラルセックスでも感染する (%)		52	45	50
エイズに感染しても発病前は健康な人と変わらない (%)		72	67	70
自分自身の性に生まれて良かったと思う またはどちらかといえば良かったと思う (%)		79	79	80
あなたにとつての性交の意味 「子供を産むため」が1位 (%)		33	40	34
あなたにとつての性交の意味 「快樂のため」が1位 (%)		3	4	4
あなたにとつての性交の意味 「パートナーとの愛情確認」が1位 (%)		63	56	62
人生設計について考えているまたはどちらかといえば考えている (%)		74	66	74
ピアレシジャーを感じる割合 またはどちらかといえば感じる (%)		39	38	50
気持ちの準備が出来ていない段階で性交を求められたときに自分の気持ちを保てる自信がある (%)		77	73	73
性交時コンドームの必要性があると思う (%)		93	92	94
性交時コンドームを正しく使う自信のある (%)		53	49	54
性交時ピルの必要性があると思う (%)		30	28	30
ピルの入手方法知っている (%)		46	39	46
Self-efficacy (平均点±SD)		7.3±3.6	6.5±3.7	6.8±3.6
Self-esteem (平均点±SD)		24.2±5.0	23.8±5.4	23.9±5.2

ピア希望者群からは以前受講したものを除いた

表4 無作為抽出群における学年毎のアンケート結果(男)

男	高校1年生 1602	高校2年生 1439	高校3年生 1254
N	72	72	72
何でも話せる友人有り (%)	17	19	21
彼氏彼女有り (%)	17	24	31
性交経験有り (%)	66	79	79
避妊に関する知識 (以下の各内容の正誤を正しく回答した割合)	45	56	65
1度のセックスでも妊娠する (%)	46	67	73
安全日にセックスすれば避妊できる (%)	29	37	37
膈外射精すれば避妊できる (%)	19	22	25
経口避妊薬を飲めばほぼ100%避妊できる (%)	32	42	41
きちんとコンドームをすれば避妊できる (%)	74	83	83
緊急避妊法は望まない妊娠を防ぐ方法である (%)	49	66	74
性感染症に関する知識 (正答率)	38	49	52
コンドームで性感染症の予防ができる (%)	61	68	73
経口避妊薬で性感染症の予防ができる (%)	93	94	93
性感染症はオーラルセックスでも感染する (%)	40	34	34
エイズに感染していても発病前は健康な人と変わらない (%)	16	18	19
自分自身の性に生まれて良かったと思う またはどちらかといえば良 かったと思う (%)	44	48	48
あなたにとっての性交の意味 「子供を産むため」が1位 (%)	60	62	68
あなたにとっての性交の意味 「快楽のため」が1位 (%)	63	65	67
あなたにとっての性交の意味 「パートナーとの愛情確認」が1位 (%)	64	65	65
人生設計について考えているまたはどちらかといえば考えている (%)	78	85	84
ピアプレッシャーを感じる割合 またはどちらかといえば感じる (%)	54	64	68
気持ちの準備が出来ていない段階で性交を求められたときに自分の気 持ちを伝える自信がある (%)	27	23	24
性交時コンドームの必要性があると思う (%)	19	32	37
性交時コンドームを正しく使う自信のある (%)	7.0±3.5	7.1±3.6	7.5±3.6
性交時ピルの必要性があると思う (%)	25.4±5.2	25.7±5.4	26.0±5.8
ピルの入手方法知っている (%)			
Self-efficacy (平均点±SD)			
Self-esteem (平均点±SD)			

表5 無作為抽出群における学年毎のアンケート結果(女)

	高校1年生 1602	高校2年生 1601	高校3年生 1483
女			
N			
何でも話せる友人有り (%)	84	83	83
彼氏彼女有り (%)	22	27	31
性交経験有り (%)	18	33	42
避妊に関する知識 (以下の各内容の正誤を正しく回答した割合)			
1度のセックスでも妊娠する (%)	70	82	83
安全日にセックスすれば避妊できる (%)	61	71	73
膣外射精すれば避妊できる (%)	52	70	77
経口避妊薬を飲めばほぼ100%避妊できる (%)	27	40	38
きちんとコンドームをすれば避妊できる (%)	25	29	30
緊急避妊法は望まない妊娠を防ぐ方法である (%)	25	38	37
性感染症に関する知識 (正答率)			
コンドームで性感染症の予防ができる (%)	68	78	77
経口避妊薬で性感染症の予防ができる (%)	52	67	71
性感染症はオーラルセックスでも感染する (%)	38	46	52
エイズに感染していても発病前は健康な人と変わらない (%)	62	69	70
自分自身の性に生まれて良かったと思う またはどちらかといえば良 かったと思う (%)	76	81	80
あなたにとつての性交の意味 「子供を産むため」が1位 (%)	42	40	40
あなたにとつての性交の意味 「快楽のため」が1位 (%)	5	3	4
あなたにとつての性交の意味 「パートナーとの愛情確認」が1位 (%)	53	57	57
人生設計について考えているまたはどちらかといえば感じる (%)	59	67	72
ピアレッジャーを感じる割合 またはどちらかといえば感じる (%)	35	39	39
気持ちの準備が出来ていない段階で性交を求められたときに自分の気 持ちを伝える自信がある (%)	72	72	75
性交時コンドームの必要性があると思う (%)	92	93	91
性交時コンドームを正しく使う自信のある (%)	41	49	57
性交時ピルの必要性があると思う (%)	32	63	24
ピルの入手方法知っている (%)	27	44	47
Self-efficacy (平均点±SD)	6.4±3.5	6.2±3.7	7.0±3.8
Self-esteem (平均点±SD)	23.4±5.1	23.6±5.5	24.5±5.5

表6 ピアカウンセリング受講者群における受講前後のアンケート結果の変化(男)

	受講前		P値
	N	78	
高校1年生	48	49	0.95
高校2年生	30	31	
高校3年生	23	21	
何でも話せる友人有り (%)	80	78	0.78
彼氏彼女有り (%)	26	22	0.51
性交経験有り (%)	34	33	0.96
避妊に関する知識 (以下の各内容の正誤を正しく回答した割合)			
1度のセックスでも妊娠する (%)	78	88	0.18
安全日にセックスすれば避妊できる (%)	66	83	0.003
膣外射精すれば避妊できる (%)	65	82	0.02
経口避妊薬を飲めばほぼ100%避妊できる (%)	38	69	<0.0001
きちんとコンドームをすれば避妊できる (%)	31	27	0.84
緊急避妊法は望まない妊娠を防ぐ方法である (%)	45	65	0.01
性感染症に関する知識 (正答率)			
コンドームで性感染症の予防ができる (%)	81	87	0.05
経口避妊薬で性感染症の予防ができる (%)	65	77	0.02
性感染症はオーラルセックスでも感染する (%)	56	72	0.007
エイズに感染していても発病前は健康な人と変わらない (%)	69	90	0.005
自分自身の性に生まれて良かったと思う (%)	98	94	0.20
あなたにとつての性交の意味「子供を産むため」が1位 (%)	39	44	0.53
あなたにとつての性交の意味「快楽のため」が1位 (%)	12	5	0.33
あなたにとつての性交の意味「パートナーとの愛情確認」が1位 (%)	49	51	0.34
人生設計について考えているまたはどちらからかという (%)	74	76	0.97
ピアプレッシャーを感じる割合 またはどちらからかという (%)	50	56	0.26
気持ちの準備が出来ていない段階で性交を求められたときに自分の気持ちを伝える自信がある (%)	68	77	0.44
性交時コンドームの必要性があると思う (%)	89	91	0.73
性交時コンドームを正しく使う自信のある (%)	66	92	0.0008
性交時ピルの必要性があると思う (%)	33	39	0.56
ピルの入手方法知っている (%)	36	69	<0.0001
Self-efficacy (平均点±SD)	8.8±3.7	8.3±3.9	0.54
Self-esteem (平均点±SD)	27.7±5.4	27.7±5.5	0.59

Self-efficacy, Self-esteemに関しては対応のないχ²検定、その他はχ²乗検定を用いた

Self-efficacyは一般性self-efficacy尺度による

Self-esteemはRosenbergの尺度による

表7 ピアカウンセリング受講者群における受講前後のアンケート結果の変化(女)

	受講前		受講後		P値
	N	176	N	168	
高校1年生		39		39	
高校2年生		47		48	0.90
高校3年生		15		13	
何でも話せる友人有り (%)		87		86	0.87
彼氏彼女有り (%)		37		31	0.21
性交経験有り (%)		36		39	0.66
避妊に関する知識 (以下の各内容の正誤を正しく回答した割合)					
1度のセックスでも妊娠する (%)		84		89	0.25
安全日にセックスすれば避妊できる (%)		71		78	0.16
膣外射精すれば避妊できる (%)		72		83	0.03
経口避妊薬を飲めばほぼ100%避妊できる (%)		44		61	0.0003
きちんとコンドームをすれば避妊できる (%)		24		25	0.14
緊急避妊法は望まない妊娠を防ぐ方法である (%)		34		57	<0.0001
性感染症に関する知識 (正答率)					
コンドームで性感染症の予防ができる (%)		81		87	0.28
経口避妊薬で性感染症の予防ができる (%)		72		81	0.003
性感染症はオーラルセックスでも感染する (%)		53		73	0.0001
エイズに感染しても発病前は健康な人と変わらない (%)		74		83	0.10
自分自身の性に生まれて良かったと思う またはどちらからかといえば良かったと思う (%)		79		83	0.43
あなたにとっての性交の意味 「子供を産むため」が1位 (%)		33		39	0.38
あなたにとっての性交の意味 「快楽のため」が1位 (%)		4		3	0.68
あなたにとっての性交の意味 「パートナーとの愛情確認」が1位 (%)		63		58	0.39
人生設計について考えているまたはどちらからかといえば考えている (%)		73		80	0.53
ピアレッシュャーを感じる割合 またはどちらからかといえば感じる (%)		40		44	0.87
気持ちの準備が出来ていない段階で性交を求められたときに自分の気持ちを伝える自信がある (%)		77		77	0.54
性交時コンドームの必要性があると思う (%)		93		96	0.07
性交時コンドームを正しく使う自信のある (%)		54		78	<0.0001
性交時ピルの必要性があると思う (%)		31		46	0.0005
ピルの入手方法知っている (%)		45		86	<0.0001
Self-efficacy (平均点±SD)		7.3±3.6		7.0±3.9	0.54
Self-esteem (平均点±SD)		24.2±5.1		23.9±5.7	0.59

Self-efficacy, Self-esteemに関しては対応のない検定、その他はχ²乗検定を用いた

Self-efficacyは一般性selfefficacy尺度による

Self-esteemはRosenbergの尺度による

平成14年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

ピアカウンセリングの国際的動向に関する研究

分担研究者 飯島愛子 （財）家族計画国際協力財団 人材養成部長
研究協力者 浅村里紗 （財）家族計画国際協力財団 人材養成課長

わが国において有効なピアカウンセリング・ピアエデュケーションのマニュアルを作成し、効果的な活用を目指すにあたり、本試みが国内で前例のないことであるため、その国際的適合性の検討が必要となる。そこで本年度は、先進国、途上国を問わず既に存在するテキストを入手、分類し、わが国にも応用可能なものがあるかどうかの検討を行った。

A. 目的

既に世界には、数多くのピアカウンセリング・ピアエデュケーションのマニュアルが存在し、機能しているところもあることは周知の事実であるが、わが国での作成にあたり、地域、文化、宗教的背景を考慮しつつ、国際比較の見地から現状把握することは重要である。基本的に、思春期の問題は、地域、文化、宗教的差異を包含するので、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカ地域で、或いは各国毎に、または同国内であっても地方毎に異なる故、それぞれの地域における主な資料を収集することを試みた。

B. 方法

今日、ARHは世界的にも注目されている課題であるため多くの資料が存在し、インターネ

ットの検索によっても、貴重な情報が得られる。

入手の手順としては、国連人口基金（UNFPA）国際家族計画連盟（IPPF）本部及び地域、各国事務所を始めとするジョイセフのパートナー機関並びに期待できる資料を有していそうな機関に、直接働きかけた。地域を、オセアニア、西大西洋、ヨーロッパ、アフリカに分け、オーストラリア、アメリカ、ドイツ、ケニアなどにある複数の機関に連絡した。日本の事例を書き込んだ、調査票を作成し、郵送調査を実施した。また、本団体が各国に赴く際に、現地調査を実施した。

C. 結果及び考察

およそ20機関から約30にのぼる資料が入手できた。マニュアルの利用者別に、4つに大別できる。政策決定者、ファシリテーター育成者、

ピア育成用並びに研究用調査である。(別添参照)

この内、特に参考になると考えられる資料は、IPPF の “Lessons Learnt: The peer education approach in promoting youth sexual and reproductive health” (項目 4/5) と “Peer Education Manual” (項目 3/6) 及びその傘下にあるアメリカ家族計画協会の “Peer Education” (項目 3/3) である。

国際家族計画連盟 (IPPF -International Planned Parenthood Federation) は世界 152 カ国に加盟団体を持ち、180 カ国以上の国々で家族計画・リプロダクティブ・ヘルス/ライツを推進している、この分野で世界最大の非政府国際組織 (INGO - International Non-Governmental Organization) である。IPPF は 1990 年の初頭から早くも思春期リプロダクティブ・ヘルス/ライツの活動を積極的に推進しており、この度、実用書としてのピアカウンセリング・ピアエデュケーションのマニュアル及び事例紹介を纏めた資料を発行した。思春期保健推進においては、ピアエデュケーションの方法が効果的で有意義であることが広く認識されている現状を踏まえてのことである。

これらの資料は、世界各国に存在する家族計画協会のピアエデュケーション普及のために作成されたもので、今後の日本におけるピアカウンセリング・ピアエデュケーションに大いに役立つものと考えられる。

D. まとめ

次年度は、上記の 3 種類の詳細な検討するとともに、必要に応じて他の資料を追加し、日本の現状に即して作成するマニュアルが、国際的にも適合できるかを検討する。

思春期保健関連文献リスト (Bibliography)

分類:

- 項目 1) *Policy Maker*: (政策決定者・思春期プログラム立案者)
項目 2) *Facilitators (TOT) /parents*: (ファシリテーター育成 (TOT) /保護者)
項目 3) *Youth*: (ピア育成)
項目 4) *Research*: (調査)

1) Policy Maker: (項目 1 : 政策決定者・思春期プログラム立案者)

1. International Planned Parenthood Federation (1997): "Sexual and Reproductive Health-A New Approach with Communities", UK, International Planned Parenthood Federation
2. McGee, M. (1999): "Helping Teens Make responsible Choices-A Guide for National Teen Pregnancy Prevention Month", New York, Planned Parenthood Federation of America, Inc.
3. Moore, K.A., Driscoll, A.K. and Ooms, T. (1997): "Not Just for Girls-The Roles of Boys and Men in Teen Pregnancy Prevention", Washington, The National Campaign to Prevent Teen Pregnancy
4. The National Campaign to Prevent Teen Pregnancy (2001): "Halfway There: A Prescription for Continued Progress in Preventing Teen Pregnancy", Washington, The National Campaign to Prevent Teen Pregnancy
5. Erika Trans (2000) Family Planning Association of Belgium "Good Lovers- new concept of sex education"
6. International Planned Parenthood Federation (2000): "VOICE- how the IPPF youth manifesto can work for you", UK, International Planned Parenthood Federation
7. International Planned Parenthood Federation (2002): "Eye to Eye", UK, International Planned Parenthood Federation
8. UNFPA CST SEA (1998) "Report of the Technical Workshop on Adolescent Reproductive Health"
9. IPPF, Vietnam FPA, UNFPA (1999): "Adolescent Reproductive Health", Hanoi, EC/UNFPA Project RAS/98/P19

1 及び # 5 は項目 2 のファシリテーター育成 (TOT) /保護者にも活用可能
3 は項目 4 の Research (調査結果) はも含む

2) Facilitators (TOT) /parents: (項目 2 : ファシリテーター育成 (TOT) /保護者)

1. The National Campaign to Prevent Teen Pregnancy: "Ten Tips For Parents-To Help Their Children Avoid Teen Pregnancy", Washington, The National Campaign to Prevent Teen Pregnancy

2. Youssef, M, Wallace B, Connolly, M and Franzkowiak P. (1995): "Working with Young People-A Guide to Preventing HIV/AIDS and STDs", London, Commonwealth Youth Programme
3. Ministry of Health, Malaysia (1997): "Adolescent health care – Adolescent health needs – manual for trainers of health personnel at primary health care level"
4. "Dual Protection for Youth – Trainers manual"
5. WHO (1993): "Counseling skills training in Adolescent Sexual and Reproductive Health – a facilitators guide"
6. Population Center Foundation (1983) Philippines: "Another look at counseling – a component module of the package reaching out to the adolescents"

3) Youth: (項目 3 : ピア育成)

1. Gordon, G. (1999): "Choices-A Guide for Young People", London and Oxford, Macmillan Education Ltd
2. UNICEF ESARO (1999): "Choices", Nairobi, UNICEF Eastern and Southern Africa
3. Healy K, Lunquist J., Murphy M, (1993): "Peer Education-A Little Help from Your Friend": Michigan, Planned Parenthood Centers of West Michigan
4. Carter W. (1991): "Communication Skills-A Complete Package For A One-Day Training Workshop", London, Harbridge Consulting Group Limited
5. Federation of Family Planning Associations, Malaysia: "The Best Years of Your Life", Selangor, Federation of Family Planning Associations

3 及び # 4 は項目 2 のファシリテーター育成 (TOT) にも活用可能

4) Research: (項目 4 : 調査)

1. Bearman P. and H. Bruckner (1999): "Power in Numbers: Peer Effects on Adolescent Girls' Sexual Debut and Pregnancy", Washington, The National Campaign to Prevent Teen Pregnancy
2. Bearman P. et al. (1999): "Peer Potential: Making the Most of How Teens Influence Each Other", Washington, The National Campaign to Prevent Teen Pregnancy
3. Miller, B.C. (1998): "Families Matter- A Research Synthesis of Family Influences on Adolescent Pregnancy", Washington, The National Campaign to Prevent Teen Pregnancy
4. UNESCO PROAP Regional Clearing House on Population Education and Communication Bangkok, Thailand (1999): "Adolescents on the Net", Bangkok, UNESCO